

ホームページへの掲載	
済	2月20日

## 岐阜県立揖斐高等学校

学 校 長 鈴木 英司  
学校住所 揖斐郡揖斐川町三輪1852番地 電話 0585-22-1261

- 1 会議の名称 学校評議員による会 (第2回)
- 2 会議の構成 委 員 錦野 悦朗 様 揖斐高同窓会長  
杉山 洋子 様 揖斐川町社会教育委員  
服部 均 様 揖斐川町商工会長  
栗田 祐子 様 揖斐厚生病院看護部長  
石橋寿恵広 様 元揖斐郡小中校長会長  
  
保護者代表 金森佐知子 様 P T A会長  
  
学 校 側 鈴木 英司 校長  
赤坂 和之 教頭  
成瀬 圭子 主幹兼事務長  
大平 隆司 教諭 (教務主任)  
下野 正人 教諭 (進路指導部長)
- 3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成29年2月9日(木) 13:20~15:00 揖斐高校 校長室  
評議員5名、評価委員1名と、学校側5名が出席(和田摂が出張のため欠席)
- 5 会議の概要

### (1) テーマ 揖斐高校の今年度の取組と来年度へ向けての課題について

学校側 「生徒との懇談」では、5名(3年生4名 2年生1名)の生徒が「高校生活で頑張ったこと」「揖斐高校の良いところ」「地域の皆さんに伝えたいこと」などを発表し、質疑応答を挟みながら、貴重なご助言をいただいた。その後資料に沿って、各分掌から今年度の取組について報告し、来年度へ向けての課題を説明した。

意見1 昔で言うところの根性、粘り強さの育成に努めてほしい。

意見2 昨年の卒業式は厳粛な雰囲気の中で行われたが、生徒の返事が小さいのが残念だった。返事の大きいクラスは担任教師が生徒の顔を見て呼名したクラスで、逆に小さいのは下を向いて呼名しているクラスだった。施設管理面では体育館の西側前の扉がしっかりと閉まらず、卒業式の時隙間風が入ってきていた。修繕が必要ではないか。女子が集会などで体育館の床に座る時、もし胡坐をかいているようであれば見苦しいので厳禁である。

意見3 「生徒との懇談」では、小規模校ならではのすばらしい面が出ていると感じた。生徒は皆、揖斐川町のことをよく知っており、自然環境、部活の環境の良さを実感し、地域の方々の理解、支援に感謝しながら学校生活を送っていることがよく分かった。お互いに挨拶し合えるのも小規模校だからだろう。これからも小規模校の特徴を生かした学校づくりを目指し、地域社会人の育成に努めてほしい。

意見4 就職する生徒が多いとのことだが、社会に出ると色々なトラブルに遭遇することになる。先ほどの生徒たちはリーダーシップのとれる子たちで、話し合いをとおして解決する能力を持っており、心配はないだろうが、中には一人で抱え込んでしまう子もいるだろう。問題解決能力は社会に出てからとても大切なものなので、是非学校生活の中での育成に努めてほしい。

意見5 コミュニケーション能力は普段の学校生活の中で育成することが大切である。「1分間スピーチ」を3年間続けることが有効ではないか。「生徒との懇談」の中で、服装の乱れ、自転車運転マナーの悪さ、遅刻の多さについての言及があったが、これらについては生徒自身の力で解決策が見いだせるとよい。交通マナーについては地域の方々の協力もあって随分改善された。地元で手伝えることがあれば喜んでお手伝いしたい。

意見6 揖斐高生は挨拶がしっかりできていると思う。登下校時にも、地元の人たちにも挨拶するのが習慣化している。我が子が大垣市内に出向き、見知らぬ人にも大きな声で挨拶をし、奇異な目を向けられることもあったほどだ。しかし、挨拶は就職してから、社会に出てからも大切なことなのでぜひ続けさせたい。

## 6 会議のまとめ

昨年度と同様「生徒との懇談」という形式をとったが、和やかな雰囲気の中、生徒たちの生の声を聞いていただけたことで、より開かれた学校づくりに近づけたものと確信する。生徒たちにとっても、地域の方々にあたたかく見守っていただいていることを再確認できる、またとない機会となった。今後も地域の方々に、本校の魅力をより具体的に発信していくことが必要だと改めて感じた。

また、ご提言いただいたコミュニケーション能力の育成、卒業式に呼名の際の返事などは、学校全体の課題として取り組み、より一層の充実を図っていきたい。体育館の扉についても、早急に調査し、必要な措置を取ることとする。